

$d\ell$ と低下傾向を示した。ディスク電気泳動法では、NMとSPMAで α_3 バンドが増強し、SPMAで extra β バンドが出現しているが意義は不明である。

〔考案〕

β リポ蛋白は脂肪運搬の役割に加え、膜安定性および脂肪代謝の調製に関与しているといわれる。Maro 等は低 β リポ蛋白血症が、これらの障害を惹起し、臨床的脱髄神経病変を発症すると仮説を提唱している。もちろん asymptomatic cases がかなり高率に存在する事が知られており、低 β リポ蛋白血症と神経病変については不明の点が多い。しかし、このNM三兄妹例で低 β リポ蛋白血症を認めた事は、発症機転に神経原性因子の関与が示唆され、遺伝性代謝性疾患の可能性がある。又、低 α リポ蛋白血症の合併等、不明な点も多く、今後さらに超遠心分離法による詳細な検討が必要である。

〔結論〕

神経・筋疾患の血清脂質及びリポ蛋白について検索し、ネマリン、ミオパチーの一家系で低 β リポ蛋白血症を示した症例を報告した。先天性筋ジストロフィー症も β リポ蛋白が低い傾向を示したが、SPMA及びDMPは異常なかった。以上 pathogenesis についても惹干検討を加えた。

24. 正常及びジストロフィーマウス 由来再生筋芽細胞のクローン培養

国立療養所刀根山病院

蔦 宗 俊 明 智 片 英 治
香 川 務 谷 淳 吉

我々は成熟マウス由来の再生筋芽細胞を用いてクローン培養及び細胞株の樹立を試みてきたので現在迄の結果を報告する。

〔材料と方法〕

成熟したC57BLマウスの骨格筋に高張食塩水を注射し筋再生を起させ、その筋を無菌的に切出し、メスで細切し、ピペッティングにより細胞を分離し培養に用いた。

血清はFBS、CS、HoS（各社製）を用い、培地はEagle's MEM、RPMI 1640、F12及びビタミン、アミノ酸（Eagle's MEM含有量の整数倍）を検討した。

シャーレは、Falcon petri dish を用い、クローニングには Falcon microtest II を用い、5

% CO₂ in air で培養した。又、シャーレは、gelatin で coating した。

〔結 果〕

- 1) 血清は20%CSでも可能でありCEEが無くても Fig 1. のように myotube が形成された。
- 2) クローニングされた細胞は途中で分裂が止まり、実験に使用出来る量迄増殖させることが出来なかった。
- 3) アミノ酸、ビタミン2倍加の Eaglis ME M80%、CS20%、Ca⁺⁺Free Earle 液の培地構成が、Fig 2. に示すようにセンイ芽細胞の増殖を抑えかつ Myotube の形成が遅れ有望であったが3-4継代、(約2ヶ月迄)、以後分裂が止り次第に変性していった。
- 4) Ca⁺⁺ Free Earle 液をもとの構成の Earle 液にもどすと Fig 3. のように再度 Myotube 形成が促進される。
- 5) 全実験例について血清の与える影響が非常に大である。

Fig 1.

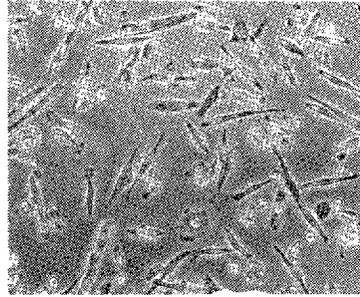


Fig 2.

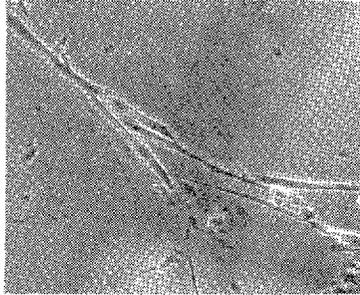


Fig 3.



↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

我々は成熟マウス由来の再生筋芽細胞を用いてクローン培養及び細胞株の樹立を試みてきたので現在迄の結果を報告する。

〔材料と方法〕

成熟した C57BL マウスの骨格筋に高張食塩水を注射し筋再生を起させ、その筋を無菌的に切出し、メスで細切し、ピペッティングにより細胞を分離し培養に用に用いた。

血清は FBS、CS、HoS(各社製)を用い、培地は Eagle's MEM、RPMI1640、F12 及びビタミン、アミノ酸(Eagle's MEM 含有量の整数倍)を検討した。